

## チュートリアル課題 初めての妊娠!初めての出産!

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.20780/00033196">https://doi.org/10.20780/00033196</a>

2018年度 Segment. 4

課 題 No.5

課題名：初めての妊娠！初めての出産！

課題作成者：母子総合医療センター

川端伊久乃



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

会社員の佐藤文子さん（35歳）は、最近学生時代から付き合っていた良一さん（36歳）と結婚しました。年齢が気になっていて、早く妊娠することを希望していました。しかし仕事が忙しく、なかなか自分のこと身体を気遣う余裕がありませんでした。このところだるい感じが続き食欲もありません。忙しかったし風邪かなと思っていたのですが、生理が来ていなかったことに気づきました。そこで妊娠検査薬を買ってきて検査をしたところ、陽性反応が出ていました。次の日、文子さんは産婦人科を受診しました。

医師 「今日はどうされましたか？」

文子さん 「妊娠してみたいです。」

医師 「そうですね。体調は大丈夫ですか？出血などはありませんか？」

文子さん 「ちょっと疲れやすいし、なんとなくだるいです」

医師 「最後の生理が始まったのはいつですか？」

文子さん 「ちょうど6週間前です。2週間くらい遅れていると思います。」

医師 「わかりました。ではまず、超音波の検査で、いまの子宮の中の状態がどんな時期か調べてみましょう」

経膈超音波では、資料1のような所見を見ることができました。

シート2

文子さんは3週間後 再び産婦人科を受診しました

受診日の朝、なんとなく朝起きたらなんとなく下腹部の軽い痛みを感じ、トイレで少量でしたが出血していたことに気がつきました。

医師 「体調はいかがですか？」

文子さん 「今朝、少し出血していたようです。なんとなくお腹も痛いような、でも今は大丈夫な感じですよ。」

医師 「わかりました。それでは内診と超音波をしていきましょう」

経膈超音波では、資料2のような所見を見ることができました。

医師からは、出血は少量であり、今はもうほとんどおさまっているため、無理をしないようにと言われました。

そして出産予定日が 2019年3月18日になること、妊娠中に行う予定の検査についての説明を受け、母子手帳をもらって来ることを指示されました。

シート3

その後、文子さんは順調な妊娠経過でした。（資料4）

そして、産休に入り、いよいよ臨月となりました。

ご両親も、初孫の出産を心待ちにしているようで、毎日のように電話をかけてきては、「いつ生まれるの？」と聞いてきます。しかし、出産予定日を過ぎても、生まれるような気配はありません。子宮収縮は夜になるとくるのですが、続くことはなく1時間くらいでおさまってしまいます。胎動はしっかりしているので大丈夫かなと思いつつも、文子さんはなんとなく心配な日々を過ごしていました。

妊娠41週0日で妊婦健康診査のため病院を受診しました。産婦人科の先生から、「少し赤ちゃんの羊水量が少ないようですね」と言われ、「明日、入院してお産にしましょう。」と言われました。

文子さんは、入院当日の朝、鈍いお腹の痛みと、腰の痛みを覚えて目が覚めました。その痛みは10分毎に規則的に感じられ、さらに子宮収縮に伴う強いお腹の痛みも感じました。さらに尿意を感じてトイレに行ったところ、真っ赤な水っぽい粘液が流れてきました。急いで病院に向かい入院の手続きを取りました。産科の先生から「すでに破水していて、分娩が始まっているようだね」と言われ、赤ちゃんの心拍の動きをみるモニターをつけました。

## シート4

文子さんはそのまま入院し、陣痛室で胎児心拍陣痛図をつけながら経過を見ていました。その後子宮口は8cmまで開大しましたが、陣痛の間隔は4分からなかなか短くならず、持続時間も20-30秒程度でした。さらに1時間経過を見ましたが、分娩の進行がみられなかったため、医師から「陣痛が弱いようなので、陣痛促進剤を使いましょう」と言われ、そのリスクについて説明を受けました。

促進剤を開始して、1時間ほどで子宮口が全開大しました。しかし直ぐに分娩にはならず、すでに2時間が経過しています。文子さんは、2分おきに規則的に陣痛を感じますが、赤ちゃんはなかなか生まれません。そのとき突然に、胎児心拍数陣痛図（資料8）を見ていた産婦人科の先生が、「赤ちゃんが苦しんでいるようなので、これから吸引分娩にします。」と言うと、吸引カップを赤ちゃんの頭につけて引っ張りました。幸い、赤ちゃんの頭は出たようです。でも、分娩を介助していた助産師さんが「先生！赤ちゃんの肩が出ません」と言っているのが聞こえます。横にいた産科の先生から膝を曲げられ、恥骨の上を突然押され、ありったけの力でいきんでみたら、やっと赤ちゃんが生まれました。

分娩には新生児科医も立ち会い、出生後すぐに赤ちゃんの蘇生を開始しました。生後1分では弱いながらも泣き始めていました。心拍数は120回/分、手足は少し曲げていました。口腔内を吸引したら、くしゃみをしました。全身チアノーゼでした。

生後5分では、赤ちゃんはしっかりと泣き始めており、心拍数は130回/分、手足をしっかりと動かしていました。口腔内の吸引では咳込みました。体幹はピンク色ですが、手足にはチアノーゼがみられました。

新生児科の先生から、「おめでとうございます。赤ちゃんは生まれて直ぐちょっと苦しかったようです。今は大丈夫だと思いますが、このあとも慎重にみていきますね」と声をかけてもらいました。文子さんは、元気に泣いている我が子を見て、まずはホッとしました。

あかちゃんはその後体重を計りました。赤ちゃんの体重は3700gでした。